

都市再生整備計画

おがわじょうあとちしゅうへん
小河城跡地周辺地区

いばらき おみたまし
茨城県 小美玉市

令和6年1月

事業名	確認
都市構造再編集集中支援事業	■
都市再生整備計画事業(社会資本整備総合交付金)	□
都市再生整備計画事業(防災・安全交付金)	□
まちなかウォークアブル推進事業	□

都市再生整備計画の目標及び計画期間

様式(1)-②

都道府県名	茨城県	市町村名	おみたま 小美玉市	地区名	おがわじよあちしほうへんちく 小河城跡地周辺地区	面積	38.9	ha
計画期間	令和	6	年度	～	令和	10	年度	
				交付期間	令和	6	年度	～
					令和	10	年度	

<p>目標</p> <p>大目標:小河城址周辺の歴史を活かしたにぎわい再生と防災まちづくり 目標1:小河城址の歴史と文化の特性を活かした地域交流の場づくりの推進 目標2:防災施設の充実による安心安全なまちづくりの推進</p>
<p>目標設定の根拠</p> <p>都市全体の再編方針(都市機能の拡散防止のための公的不動産の活用の方針を含む、当該都市全体の都市構造の再編を図るための方針) 本市では、社会経済状況の変化に伴う人口動態の変化や少子高齢化により人口減少へと転じる中、安全・安心で快適な生活環境の確保と持続可能な都市運営が課題となっている。安定的な財政基盤の維持と効率的な都市運営を図るため、医療・福祉施設や住居等がまとまって立地し、住民が公共交通等により、これらの生活サービス施設にアクセスできる「コンパクト・プラス・ネットワーク」の考えを実現するために、立地適正化計画を策定し、都市の再整備を進めているところである。 既成市街地である羽鳥市街地及び小川市街地に、まさに賑わいを生む2つの中心拠点として、居住誘導区域及び都市機能誘導区域が設定され、拠点内は、未利用地や空き地等を積極的に活用することで人々を呼び込むとともに、中心となる地区に必要な都市機能の充実を図る。 このうち、小川市街地内に位置する本地区は、小川市街地の古くからのまちうちを中心とした拠点であり、小河城址に位置し廃校となった旧小川小学校跡地周辺を中心として歴史的資源が点在しており、跡地については公園等の新たな活用が望まれている。一方で、本地区は一部に土砂災害計画区域及び土砂災害特別警戒区域が指定されており、居住誘導区域及び都市機能誘導区域の指定から外れている区域が存在することや、地区南部では河川氾濫による浸水が想定されている区域がある。以上を踏まえ、本計画では、小河城址の歴史と文化の特性を活かした地域交流の場づくりの推進、防災施設の充実による安心安全なまちづくりの推進により、歴史を活かした安全なまちづくりを実現する。</p> <p>まちづくりの経緯及び現況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本地区は、小美玉市の東部に位置する地区であり、県都である水戸から南に約20kmに位置する。 ・平成31年3月に立地適正化計画が策定され、本地域を含む小川市街地と羽鳥駅周辺を含む羽鳥市街地との2つの中心拠点に居住誘導区域および都市機能誘導区域の設定が行われた。 ・まちづくりの目標としては、 目標1:地域コミュニティや暮らしの維持・充実 目標2:地域のにぎわいと交流を支える拠点性の向上 目標3:地域と拠点、ヒトとコトをつなぐネットワークの構築を設定した。 ・小河城址のある本地区は、旧小川小跡地を取り囲む、急傾斜地崩壊危険区域の解消が急務になっている。 ・小美玉市都市計画マスタープラン(令和4年3月)では、本地区を含む小川市街地においては、地域活力の再生と暮らしやすい生活基盤の整備とともに、河岸のまちとしての歴史を生かした個性ある市街地整備を推進するため、地域の特性等を考慮しながらまちづくりの手法を検討し、生活基盤の整備や都市機能の充実化、良好な景観形成等による安全・安心・快適な居住環境整備を図るとされている。 ・古くから河岸として栄えてきた本地区は、茨城空港と近接した市街地であり、旧小川小学校跡地利用について検討が進められてきた。 ・今後のまちづくりの方策として、本地区においては「更なる交流拠点の整備やネットワークの整備による回遊性の創出を図る」、「歴史的資源を生かした賑わいの創出を図る」、「市街地における防災機能の強化を行う」とした。
<p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旧小川小学校跡地周辺には土砂災害警戒区域および土砂災害特別警戒区域が存在し、急傾斜地の解消が課題となっている。 ・本地区南部には、浸水想定区域が存在し、災害に備え、避難場所の整備が必要である。 ・本地区は老朽化した施設や閉校・廃止施設があり、公共施設建築物系個別施設計画や旧小川小跡地周辺地域再整備基本計画に基づいた整備が必要である。
<p>将来ビジョン(中長期)</p> <p>①小美玉市第2次総合計画(平成30年3月策定) ・小川地区の市街地ゾーンに位置づけ、周辺との連携を図りながら、身近な商業・サービス機能の充実を図る</p> <p>②小美玉市都市計画マスタープラン(令和4年3月策定) ・旧小川小学校跡地周辺は、急傾斜地解消の促進と歴史と文化の香る賑わいある地域交流の場の創出を図る ・市街地は、バリアフリーに配慮した歩行者空間づくりや、空き地、空き店舗の活用、交通利便性の向上等により、身近な商業地としての安心・快適な環境づくりを図る ・修景整備や歴史的建造物の保全、辻広場の配置等により、小河城跡の立地や河岸のまちとしての歴史性を後世に継承・活用した個性あるまちづくりを推進</p>

都市構造再編集集中支援事業の計画

都市機能配置の考え方

本地区は、旧小川小学校が統廃合により移転するため、跡地については公園等の新たな活用を図る。
また、空き地を活用した広場、防災広場、ポケットパークの整備により、防災機能も兼ね備えた交流の場づくり及び賑わいの創出を図る。

都市の再生のために必要となるその他の交付対象事業等

目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
小川図書館・生涯学習交流施設の利用者数	人／年	小川図書館・生涯学習交流施設の利用者数	小河城址の歴史と文化の特性を活かした地域交流の場づくりの推進を図り、小川図書館・生涯学習交流施設の利用者数の増加を目指す。	31,272人/年	R4年度	33,000人/年	R10年度
コミュニティバスの利用者数	人／日	1日あたりのコミュニティバスの利用者数	小河城址の歴史と文化の特性を活かした地域交流の場づくりの推進を図り、1日あたりのコミュニティバスの利用者数の増加を目指す。	140.9人/日	R4年度	150人/日	R10年度
住みやすさに関する満足度	%	「とても住みやすい」「住みやすい」と感じる市民の割合(アンケート)	防災施設の充実による安心安全なまちづくりの推進を図り、住みやすくと感じる市民の割合を増やす。	48.90%	R3年度	50.50%	R10年度

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>【小河流域の歴史と文化の特性を活かした地域交流の場づくりの推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地区周辺道路の拡幅整備及び新設整備を行う ・旧小川小跡地について、広場整備、公共公益施設整備を行う ・災害時の避難路として事業地区から市街地に結ぶ新規道路整備を行う 	<p>【基幹事業】小河流域地公園整備 【基幹事業】生涯学習交流施設整備 【提案事業】利便性向上事業 【関連事業】避難路整備</p>
<p>【防災施設の充実による安心安全なまちづくりの推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小川河岸跡地周辺の史跡や公共公益施設を活かし広場整備を行う ・川岸公民館(児童館)周辺の空き地、空き家を活かし、地域防災に対応した防災広場整備を行う ・小川市街地内の空き地を活かし、本地域の歴史を感じさせる、ポケットパーク整備を行う ・素鷲神社から交流拠点である公園や防災広場、各ポケットパークをつなぐ回遊ルートとして、道路美装化整備や側溝蓋掛整備、歩道改良整備及びサイン整備等を行う 	<p>【基幹事業】河岸広場整備 【基幹事業】小川北ポケットパーク整備 【基幹事業】川岸防災広場整備 【基幹事業】市道218号線美装蓋掛 【基幹事業】市道小川0943号線、0944号線 歩道整備 【基幹事業】市道小川1003号線、1005号線 美装化 【基幹事業】市道小川1004号線、1009号線 美装化 【基幹事業】サイン整備</p>
<p>その他</p>	
<p>【敷地整序型土地区画整理事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旧小川小跡地について、急傾斜崩壊危険地域の解消及び歴史資源である素鷲神社を活かした、敷地整序型土地区画整理事業による整備を行う <p>【関連事業】敷地整序型土地区画整理事業 【関連事業】急傾斜地の解消</p>	

小河城跡地周辺地区(茨城県小美玉市)

面積 38.9 ha 区域 小川及び中延の各一部

